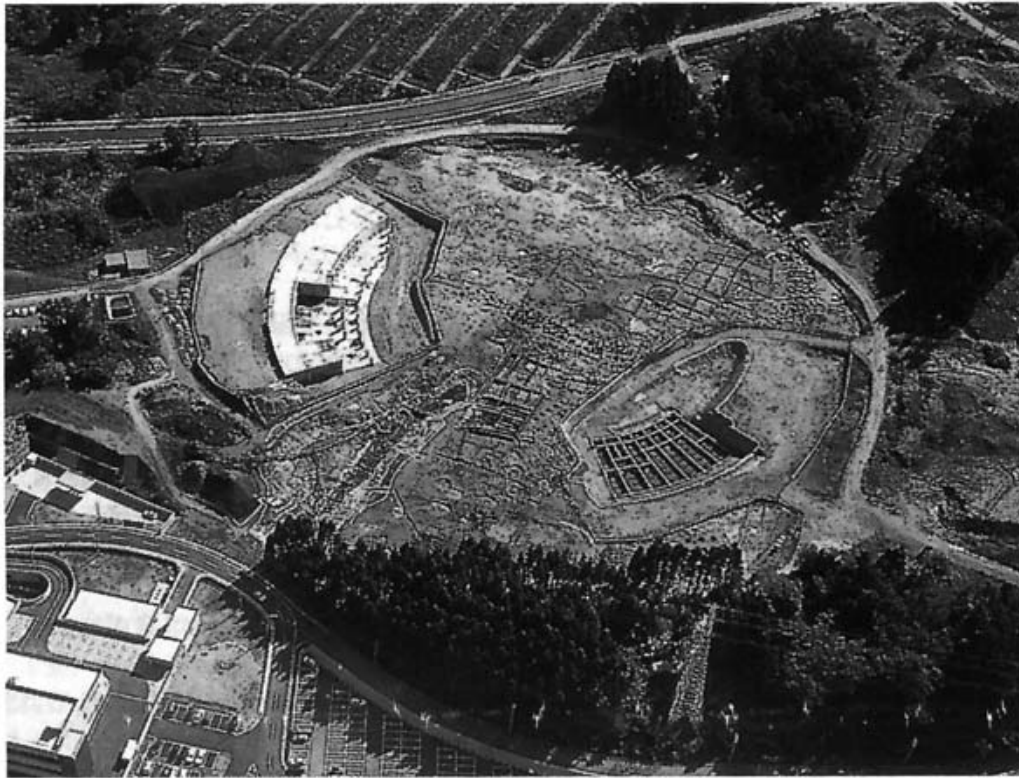


QR Newsletter



第四紀通信

Vol.3 No.4, 1996



三内丸山遺跡全景 (大会シンポジウム参照)

Vol.3 No.4

July 15, 1996

1996年度大会第4報	2	国際研究集会のお知らせ	12
大会プログラム	3	INQUA Home Pageについて	12
地球惑星合同大会第1報	9	公募のお知らせ	13
研究助成の案内	10	幹事会議事録	14
Island Arcからのお知らせ	10	会員消息	15

■ 日本第四紀学会 1996年大会 [第4報] (総会・研究発表会・創立40周年記念公開シンポジウム)

1. 日 程

1996年8月22日(木)		
9:30~12:02	一般研究発表(1~12)	山上会館2階大会議室
12:02~13:00	昼休み	
13:00~14:48	一般研究発表(13~21)	山上会館2階大会議室
14:48~15:10	コーヒープレイク	
15:10~18:19	一般研究発表(22~36)	山上会館2階大会議室
1996年8月23日(金)		
9:30~10:30	一般研究発表(37~41)	山上会館2階大会議室
10:30~12:00	日本第四紀学会総会	山上会館2階大会議室
12:00~13:00	昼休み	
13:00~14:48	一般研究発表(42~50)	山上会館2階大会議室
14:48~15:10	コーヒープレイク・ポスターセッション質問	
15:10~18:07	一般研究発表(51~64)	山上会館2階大会議室
18:30~20:30	懇親会	山上会館内
1996年8月24日(土)		
9:10~17:00	日本第四紀学会創立40周年記念公開シンポジウム	東京大学大講堂(安田講堂)

- *本年度の大会は例年通り1会場で行われます。ただし、一般研究発表・総会(8月22~23日)と公開シンポジウム(8月24日)は実施会場が異なりますのでご注意ください。
- *一般研究発表の時間は10分です(1鈴7分、2鈴9分、終鈴10分)。講演3つ毎に各2分、計6分の質疑時間を設けています。
- *一般研究発表でのスライド・OHPの使用は合計で8枚以内をお願いします。スライドには講演番号、映写順序、氏名を記入し、丸印を映写ホルダーの挿入状態で右上余白に付けて下さい。そして、発表30分前までに会場入口のスライド受付係に提出して下さい。OHPはご自分で操作して下さい。
- *ポスターセッションは横90cm、縦180cmのパネルが1件につき1枚用意されます。ポスターの展示は山上会館201、202号室で、展示時間は8月22日(木)10:30から23日(金)16:00です。なお、23日午後のコーヒープレイク(14:48~15:10)には質問等が受けられるよう、発表者はポスターセッション会場にできる限り居て下さい。
- *本年度は巡検は実施しません。

2. 会 場 (付図参照)

一般研究発表・総会・懇親会：東京大学構内 三四郎池脇 山上会館

公開シンポジウム：東京大学大講堂(安田講堂)

電話 03-3812-2111(代表)

大会準備委員長：米倉伸之(東京大学大学院理学系研究科地理学専攻)

交通案内：JRお茶の水駅、上野駅より都バス東大構内行き乗車、

または地下鉄丸の内線 本郷三丁目、南北線 東大前下車 正門入り正面

3. 日本第四紀学会1996年度総会 8月23日(金) 10:30~12:00

- 1) 1995年度事業報告
- 2) 1995年度決算報告・会計監査報告
- 3) 1996年度事業計画および予算案
- 4) その他

4. 懇親会

日 時：8月23日(金) 18:30~20:30
 会 場： 東京大学構内 山上会館
 会 費： 4,000円(予定)
 申し込み：22、23日の両日、一般研究発表会会場受付に申し込んで下さい。

5. プログラム

1) 日本第四紀学会40周年記念シンポジウム

8月24日(土) 9:10~17:00 (於 東京大学 大講堂 [安田講堂])

「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」

オーガナイザー：米倉伸之(東大)・辻誠一郎(国立歴史民俗博)・岡村道雄(文化庁)

9:10 - 9:15 日本第四紀学会会長挨拶：鎮西清高(京都大)

S1 9:15 - 9:30 シンポジウム趣旨説明：オーガナイザー

＜最終氷期最盛期(15,000年前まで)＝後期旧石器文化の末期＞

- S2 9:30 - 10:00 日本・東アジアの後期旧石器時代文化：安藤政雄(明治大)
 S3 10:00 - 10:30 最終氷期最盛期前後の植生の空間構造：南木陸彦(流通科学大)
 S4 10:30 - 11:00 最終氷期以降の日本海周辺域の環境変遷：多田隆治(東大)
 11:00 - 11:30 コメントと討論：座長 辻誠一郎
 11:30 - 12:30 昼休み)

＜晩氷期(15,000~10,000年前まで)＝縄文文化の成立期＞

- S5 12:30 - 13:00 縄文時代への移行期における陸上生態系：辻誠一郎(国立歴史民俗博)
 S5 13:00 - 13:30 日本列島の北と南での縄文文化の成立：岡村道雄(文化庁)
 S7 13:30 - 14:00 土壌形成と環境変化：坂上寛一(東京農工大)
 14:00 - 14:30 コメントと討論：座長 米倉伸之(東京大)
 14:30 - 14:45 休 憩

＜後氷期(10,000年前以降)＝縄文文化の展開期＞

- S8 14:45 - 15:15 縄文集落の発達：岡田康博(青森県教育庁)
 S9 15:15 - 16:45 縄文時代の森林植生の復元と木材資源利用：鈴木三男(東北大)・能城修一(森林総研)
 S10 15:45 - 16:15 縄文時代農耕の可能性：吉崎昌一(静修女子大)
 16:15 - 17:00 討論ととりまとめ：座長 岡村道雄

2) 一般研究発表 (於 東京大学構内 山上会館)

8月22日(木) 午前

- 1 9:30 - 9:40 南極・ラングホブデ北部における隆起海岸地形についての新知見：前李英明(山口大)・三浦英樹(極地研)・三枝茂(総研大・院)・森脇喜一(極地研)
- 2 9:40 - 9:50 南極ヴィクトリアランドおよび宗谷海岸沿岸地域における最終氷期以降の氷床・ローカル氷河変動，隆起海岸地形・堆積物：平川一臣(北大)・森脇喜一(極地研)・P.パークマン(オハイオ州立大)
(9:50 - 9:54 質疑)
- 3 9:54 - 10:04 東南極、リュツォ・ホルム湾、ラングホブデ南部の雪鳥沢・やつで沢に分布する氷河・融氷河堆積物と含貝化石海成層との層位関係—その南極氷床変動史における意義：三浦英樹(極地研)・前李英明(山口大)・三枝茂(総研大・院)・森脇喜一(極地研)
- 4 10:04 - 10:14 日高山脈エサオマントッタベツ川流域における最終氷期の氷河最前進期の編年と氷河の特徴：岩崎正吾・平川一臣・沢柿教伸(北海道大)
(10:14 - 10:18 質疑)
- 5 10:18 - 10:28 東南極アデリーランド沖における後期更新世以降の珪藻遺骸群集の変動：滋賀健司(北海道大)
- 6 10:28 - 10:38 網走湖・サロマ湖堆積物から得られた珪藻遺骸群集：鹿島 薫(九州大)・高安克己(島根大)
(10:38 - 10:42 質疑)
(10:42 - 10:50 休憩)
- 7 10:50 - 11:00 千葉県印旛沼周辺の下総層群の珪藻遺骸群集について(その1)：武藤博士(芝学園)・成田層古環境団体研究グループ
- 8 11:00 - 11:10 珪藻化石分析に基づく中国・太湖の古環境～1994、1995年度調査結果を中心に～：村田泰輔(北海道大)・遠藤邦彦(日本大)
(11:10 - 11:14 質疑)
- 9 11:14 - 11:24 韓国東海岸の汽水湖花津浦の特徴と古環境解析：廉 鍾權・徳岡隆夫・中村唯史・朴 燦佑(島根大)
- 10 11:24 - 11:34 噴火湾における有孔虫群集の分布：黒澤一男・長谷川四郎(北大地球環境)
(11:34 - 11:38 質疑)
- 11 11:38 - 11:48 浮遊性有孔虫化石を用いた変換関数によるKT93-st.6コアの古水温推定：・嶽本あゆみ・尾田太良(熊本大)
- 12 11:48 - 11:58 伊良部島島棚縁下から採集した炭酸塩堆積物コア試料の放射年代：大村明夫・佐々木圭一・三輪哲生(金沢大)・辻喜弘(石油開発情報センター)・松田博貴(熊本大)・中森 亨・井瀧康文・山田努(東北大)・佐藤由理(石油公団)・中川 洋(日本オイルエンジニアリング)
(11:58 - 12:02 質疑)
(12:02 - 13:00 昼休み)

8月22日(木) 午後

- 13 13:00 - 13:10 石狩一苦小牧低地南部におけるテフラー土壌累積断面の植生履歴と土壌生成：細野 衛(東京自然史研究機構)・佐瀬 隆(岩手一戸高校)
- 14 13:10 - 13:20 炉周辺土壌中の成分変化：渡辺栄治(国立名工研)
- 15 13:20 - 13:30 新潟市周辺地下の中・上部更新統のデルタ構造と堆積環境：小林巖雄(新潟大)・高野 修(石油資源)
(13:30 - 13:36 質疑)
- 16 13:36 - 13:46 横浜市西部の上倉田層、山王台ローム層および舞岡層：満岡 孝(国立科学博物館)・安野信(大岡高)・横浜サブ団研
- 17 13:46 - 13:56 東海層群堆積盆の移動：松葉千年
(13:56 - 14:00 質疑)

- 18 14:00 - 14:10 天北およびサハリン南部の鮮新-更新統一特にハラミロ事象の頃“Larix帯”の発見の意義について：岡 孝雄(道立地下資源調査所)・五十嵐八枝子(アースサイエンス)
- 19 14:10 - 14:20 静岡県掛川層群上部の火山灰層：里口保文・吉川周作(大阪市大)・笹尾英嗣(動燃)・長橋良隆(大阪市大)
(14:20 - 14:24 質 疑)
- 20 14:24 - 14:34 三重県鈴鹿川流域の河岸段丘の層序—火山ガラスを用いた層序—：片岡香子・吉川周作(大阪市立大)・相馬秀廣(奈良女子大)
- 21 14:34 - 14:44 霧島火山、御池テフラおよび御鉢テフラ群の加速器¹⁴C年代：奥野 充・中村俊夫(名古屋大)・筒井正明(砂防センター)・小林哲夫(鹿児島大)
(14:44 - 14:48 質 疑)
(14:48 - 15:10 コーヒブレイク)
- 22 15:10 - 15:20 中期—後期更新世の日本海テフラ層序：白井正明・多田隆治(東大)・藤岡換太郎(海洋科技センター)
- 23 15:20 - 15:30 濃尾平野の中～後期更新世地下火山灰層序：宮川ちひろ・吉川周作(大阪市大)
- 24 15:30 - 15:40 東北日本沖の北西太平洋深海底に分布する火山灰の同定：青木かおり(北海道大学・院)・町田 洋(都立大)
(15:40 - 15:46 質 疑)
- 25 15:46 - 15:56 湖底堆積物から見た10世紀白頭山大噴火の発生年代：町田 洋・福沢仁之(東京都立大)
- 26 15:56 - 16:06 琵琶湖東岸、烏丸地区深層ボーリングコアの火山灰層序：吉川周作(大阪市大)・烏丸地区深層ボーリング調査団
(16:06 - 16:10 質 疑)
- 27 16:10 - 16:20 西三河平野碧海層中の鬼界—葛原テフラ(K-Tz)の発見とその意義：森山昭雄(愛知教育大)・渡辺 崇(中村土木建設)・鈴木毅彦(都立大)
- 28 16:20 - 16:30 伊豆半島中部、カワゴ平火山噴出物の層序区分と分布：嶋田 繁(明治大・院)・杉原重夫(明治大)
- 29 16:30 - 16:40 愛鷹山麓の「含雲母グリース状火山灰」の給源：三瓶山：佐護浩一(ダイヤコンサルタント)・町田 洋(東京都立大)
(16:40 - 16:46 質 疑)
(16:46 - 16:55 休 憩)
- 30 16:55 - 17:05 中期更新世に噴出したAso-1テフラとそれに対比される可能性を持つガラス質火山灰層：福岡孝昭(学習院大)・鈴木毅彦(都立大)・奥村晃史(地質調査所)・町田 洋(都立大)
- 31 17:05 - 17:15 中国雲南省Erhai湖湖底堆積物の磁化測定と磁気層序：兵頭政幸・沖村 孝・野村亮太郎・田中真吾(神戸大)・柏谷健二(金沢大)・唐邦興・柳素清・劉世建(中国科学院)・吉原 新(東大)
(17:15 - 17:19 質 疑)
- 32 17:19 - 17:29 瀬戸内沿岸域湖沼堆積物から復元した最終氷期の地磁気永年変化：峯本須美代・兵頭政幸(神戸大)
- 33 17:29 - 17:39 房総半島南西岸における完新世段丘と地震性地殻変動について：宍倉正展(千葉大・院)
- 34 17:39 - 17:49 南関東の完新統の津波堆積物と段丘形成との関係：藤原 治(動燃)・増田富士雄・酒井哲弥(大阪大)・布施圭介・斉藤 晃(大和地質研究所)
(17:49 - 17:55 質 疑)
- 35 17:55 - 18:05 石狩丘陵の活褶曲の発達過程—特に変位形態の変化について—：小松原琢(地質調査所)
- 36 18:05 - 18:15 関東山地北部、鐮川における河成段丘発達史：須貝俊彦(地質調査所)
(18:15 - 18:19 質 疑)

8月23日(金) 午前

- 37 9:30 - 9:40 試錐調査からみた庄内平野東縁活断層系の第四紀後期の活動1. 観音寺断層：関地区：澤祥(鶴岡高専)・太田陽子(専修大)・鈴木康弘(愛知県立大)・渡辺満久(東洋大)・吾妻崇・小林真弓・金 幸隆(専修大・院)・鹿島 薫(九州大)・叶内敦子(明治大)

学会からのお知らせ

- 38 9:40 - 9:50 試錐調査からみた庄内平野東縁活断層系の第四紀後期の活動2. 松山断層: 竹田地区・太田陽子(専修大)・澤 祥(鶴岡高専)・鈴木康弘(愛知県立大)・渡辺満久(東洋大)
- 39 9:50 - 10:00 北海道大学構内とその周辺で観察された液状化跡と古地震: 伏島祐一郎(北大・院)・平川一臣(北大)
- (10:00 - 10:06 質疑)
- 40 10:06 - 10:16 糸魚川-静岡構造線活断層系北部の最近の断層活動: 奥村晃史(地質調査所)・井村隆介(鹿児島大)・今泉俊文(山梨大)・澤 祥(鶴岡高専)・東郷正美(法大)
- 41 10:16 - 10:26 神戸・芦屋・西宮市街地内の活断層と震災の帯: 渡辺満久(東洋大)・鈴木康弘(愛知県立大)
- (10:26 - 10:30 質疑)
- (10:30 - 12:00 日本第四紀学会総会)

8月23日(金) 午後

- 42 13:00 - 13:10 琵琶湖高島沖140mボーリングコアにおける珪藻分析-過去40万年間の珪藻ダイアグラムと古気候変動-: 加 三千宣(大阪市大)・後藤敏一(近畿大学)・井内美郎(地質調査所)
- 43 13:10 - 13:20 大阪府河内平野~羽曳野丘陵における二次林の分布拡大過程: 渡辺正巳(川崎地質)・大野薫・岩瀬 透(大阪府教委)・中辻 亘(富田林教委)
- 44 13:20 - 13:30 石狩平野南部のToya火山灰降灰前後の古植生変遷-ステージ5eのころ梅雨前線が北上しスギが増加-: 星野フサ(札幌静修高)・大森正一(計測技研)・新井房夫
- (13:30 - 13:36 質疑)
- 45 13:36 - 13:46 下総台地の開析谷に形成された泥炭層の14C年代と堆積環境: 杉原重夫(明治大)・嶋田繁(明治大・院)・増渕和夫・上西登志子(川崎青少年科学館)・宮崎等(野田市史編纂)・飯塚博和・鈴木佐智子(野田市教委)
- 46 13:46 - 13:56 温暖種から見た日本列島沿岸の縄文海進に伴う環境変遷-7500年前に注目して-: 松島義章(神奈川県立生命の星・地球博)
- (13:56 - 14:00 質疑)
- 47 14:00 - 14:10 自然環境から人為環境への生物相の変遷過程-大毛沖遺跡(古代~中世)を例として-: 鬼頭 剛・尾崎和美(愛知県埋文センター)・森 勇一(三重大)
- 48 14:10 - 14:20 植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡とその周辺の古環境推定-中期更新世以降の氷期-間氷期サイクルの検討-: 杉山真二・早田 勉(古環境研究所)
- (14:20 - 14:24 質疑)
- 49 14:24 - 14:34 静岡県清水低地の完新世における古環境変遷と人間活動: 松原彰子(湘南国際女子短大)
- 50 14:34 - 14:44 島根大学構内遺跡にみる縄文海進期の生業活動と古環境: 会下和宏・中村唯史・田中義昭(島根大)
- (14:44 - 14:48 質疑)
- (14:48 - 15:10 コーヒブレイク)
- 51 15:10 - 15:20 東日本における前期・中期旧石器時代遺跡の分布: 中村由克(野尻湖ナウマンゾウ博)
- 52 15:20 - 15:30 日本海堆積物に見られる暗色層の堆積機構: 大場忠道(北海道大学)
- 53 15:30 - 15:40 千葉県大栄町における谷津田堆積物の層序と花粉分析: 上田圭一(法政大・学)・田原 豊(千葉・磯辺高)・杉原重夫(明治大)
- (15:40 - 15:46 質疑)
- 54 15:46 - 15:56 佐渡島加茂湖における湖底ボーリング試料の花粉分析: 松江実千代(兵庫教育大・院)
- 55 15:56 - 16:06 北部信越地域の湿原堆積物と花粉分析: 関口千穂(明治大・院)・叶内敦子・杉原重夫(明治大)
- (16:06 - 16:10 質疑)
- 56 16:10 - 16:20 八島ヶ原湿原堆積物の年代と花粉分析による最終氷期から完新世にかけての環境変遷: 叶内敦子・杉原重夫(明治大)
- 57 16:20 - 16:30 埼玉県坂戸市付近の上部完新統泥炭質粘土層の花粉分析と節足動物起源のバリノモルフ: 楡井 尊(埼玉県立自然史博)

- 58 16:30 - 16:40 長野県北御牧村の下部更新統大杭層から産出した水成～湿地性甲虫：林成多（新潟大・院）
 (16:40 - 16:46 質疑)
 (16:46 - 16:55 休憩)
- 59 16:55 - 17:05 空中花粉におけるクリ花粉塊の出現率と母樹からの距離との関係：清永丈太（東京都多摩整備本部）
- 60 17:05 - 17:15 花粉流入量からみた北海道南西部八雲町におけるブナ林の成立過程：紀藤典夫（北海道教育大）・瀧本文生（函館市立中央小）
 (17:15 - 17:19 質疑)
- 61 17:19 - 17:29 東京低地東部の完新世から後期更新世の古環境と埋没谷：石綿しげ子（基礎地盤コンサルタンツ）
- 62 17:29 - 17:39 矢作川下流低地における沖積層最上部の形成と古環境：川瀬久美子（名古屋大・院）
 (17:39 - 17:43 質疑)
- 63 17:43 - 17:53 東北日本の海岸沖積低地の発達過程からみた完新世の河成活動期：大平明夫（名古屋大）
- 64 17:53 - 18:03 熊本県玉名平野の沖積層と完新世海水準変動：長岡信治（長崎大）・横山祐典（オーストラリア国立大）・前田保夫（フィリピン大）・奥野淳一（九州大）
 (18:03 - 18:07 質疑)

3) ポスターセッション（於 東京大学 山上会館）

8月22日 10:30 ~ 8月23日 16:00

- P1 南関東における火山灰土壌の性状変化—相模原地域と武蔵野地域の対比—：川井伸郎・坂上寛一（東京農工大）
- P2 風成塵堆積物の熱螢光カラーイメージ特性：長内郁典・雁澤好博（北海道教育大）
- P3 利尻火山噴出物を指標とした北海道北部地域の風成塵堆積物の分布とその堆積速度：伊藤友彦・雁澤好博（北海道教育大）・伴かおり（室蘭港北中学）・柳井清治（道立林業試験場）
- P4 河床堆積物研究における帯磁率測定の利用法：小坂和夫・坪井哲也（日大）
- P5 山陰の低湿地遺跡にみる縄文海進期の古環境：中村唯史・徳岡隆夫・会下和宏・田中義昭・竹広文明（島根大）・西尾克己（島根県教委）・赤沢秀則（島根県鹿島町教委）・岩田文章（鳥取県淀江町教委）
- P6 加治丘陵西部の飯能礫層中のホルンフェルスの化学組成：加賀美英雄（城西大）・谷口英嗣（東大海洋研）
- P7 雲仙普賢岳噴火に伴うテフラと火砕流堆積物の経年変化：磯望（西南大）・陶野郁雄（環境研）・神村郁子（大阪土質）・藤井理恵（九大）・池永絹代・佐藤美智恵・梅村宏美（西南大）
- P8 上町断層南方延長部の反射法弾性波探査：杉山雄一（地質調査所）
- P9 土層・地形層序にもとづく月山「大雪城」残雪凹地の地形分類：苅谷愛彦（地質調査所）
- P10 山形県白鷹丘陵・琵琶沼湿原のボーリングコアの層序—山形まで達していた“今市・七本桜”テフラ—：長澤一雄（山形県博）・壇原徹（京都フィッシュン）・阿子島功（山形大）・琵琶沼地質研究グループ
- P11 ノッチから見たフィリピン国・バラワン島の高海面期について：前田保夫・フェルナンド・シリガン・カノ、ミゲール（フィリピン大）
- P12 南九州の広域テフラ給源試料の高精度FT年代測定：壇原徹（京都フィッシュントラック）・藤原治（動燃）
- P13 関東縄文貝塚出土人骨の $\delta^{13}C$ ・ $\delta^{15}N$ 測定値について：小池裕子（九州大）・樋泉岳二（早大）・Brian Chisholm（UBC）
- P14 北関東に分布する第四紀テフラに関する新たなFT年代値について：鈴木毅彦（都立大）・藤原治（動燃）・壇原徹（京都フィッシュントラック）

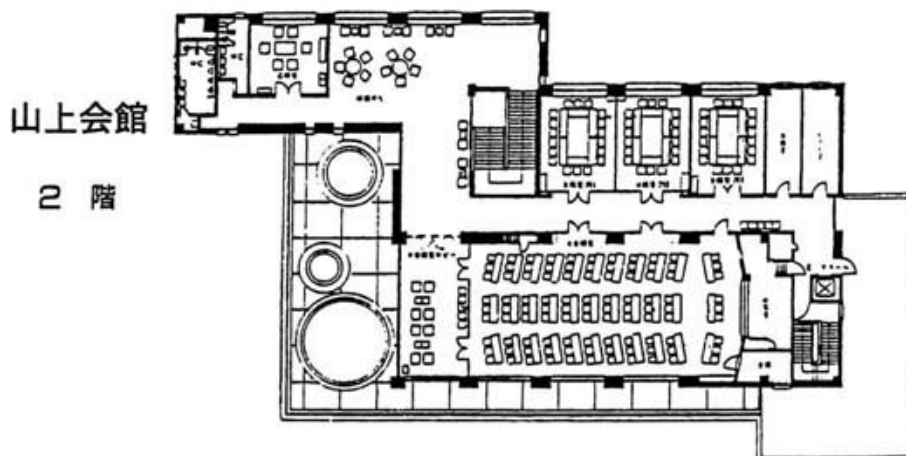
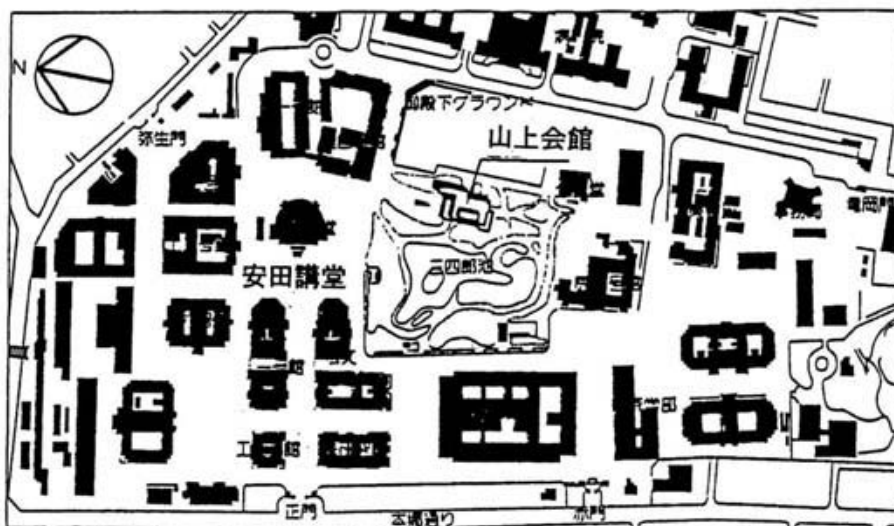
学会からのお知らせ

☆総会に出席できない方は委任状を下記幹事長あてにお送り下さい。
コピー（官製葉書に貼付でも可）でも、同様の文面でも結構です。

委 任 状	
	1996年 月 日
日本第四紀学会会長殿	
氏名	
私は議長（または、 氏）を代理人と定め、 1996年度日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任いたします	

送付先 〒183 府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学部 坂上寛一（幹事長）あて

大会会場位置図（東京大学本郷構内）



■ 地球惑星科学関連学会1997年合同大会 共通セッション・シンポジウム提案の受付

地球惑星科学関連学会の1997年合同大会は、名古屋大学東山キャンパスで8月25日から28日まで開催されます。合同大会事務局から、第一報が届いてますので、お知らせいたします。

(1) 共通セッション・シンポジウムの提案申し込み

締め切り：9月9日17時（必着）がです。

記入事項：1) コンピーナー氏名、連絡先「所属、住所、電話、FAX、E-mail」
2) call for papers の原稿

連絡先：加藤学（プログラム委員長）

〒464-01名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部地球惑星科学教室

電話：052-789-3650（ダイヤルイン） FAX：052-789-3013

E-mail：kato@tomato.eps.nagoya-u.ac.jp

なおプログラム委員会での議論の結果、提案を採択しない場合もありますので予め御了承下さい。

(2) 合同大会を運営するための事務局の構成と業務内容

（地球惑星科学関連学会合同大会運営事務局運営要綱） 1996年3月29日

1. 名称

地球惑星科学関連学会合同大会運営事務局（以下「合同大会事務局」と称す）、英語名は、「Japan Earth and Planetary Science Joint Meeting Organization」とする。

2. 合同大会事務局の運営母体

おもに固有セッションに参加している地球惑星科学関連諸学会の集まりを運営母体とする。必要であれば、この運営母体に名称をつける。

3. 合同大会事務局の組織

事務局長をおく。事務局長には、実務をサポートする人員を配置する。それに必要な費用は事務局運営費から拠出する。また、事務局長の判断で合同大会運営に必要な役員を確保し、事務局を構成し、事務局長のもとで運営する。

4. 合同大会事務局の役割

地球惑星科学関連学会合同大会の円滑な開催をとおして、地球惑星科学の一層の発展に資する。また、必要に応じてニュースレターを発行する。

5. 合同大会事務局の業務

地球惑星科学関連学会合同大会の円滑な開催に必要なスケジュール管理等の実務、合同大会開催に関連したニュースレターの発行、統一名簿の作成・管理と更新、合同大会事務局の運営資金の管理。

6. 合同大会事務局の運営資金

事務局運営にかかわる費用は、特別の事情があり、各学会の了承が得られた場合を除いては、これまでの留保をもとに、今後も合同大会の開裡などを通して得られる収入をもとに、各学会の会計とは独立して運営する。ただし、各学会は会員へのプログラム発送に関わる費用を負担するものとする。

7. 合同大会事務局会議

定例の合同大会運営事務局会議を、毎年一回（合同大会最終日の昼に）開催する。合同大会運営事務局会議は、運営事務局員のほかに、セッション参加学会より、学会長、地惑連絡会委員、行事委員等よりなる2～3名、そして開催地関係者により構成されるものとする。事務局の組織、構茂、運営、経理内容については、この定例運営事務局会議において、報書し、了承を得る。

■ 沖縄研究奨励賞候補者の推薦依頼について

財団法人沖縄協会より、下記の沖縄研究奨励賞の推薦依頼がきています。自薦・他薦等ありましたら、規定の用紙（庶務幹事に請求下さい）に記入のうえ、8月末までに庶務幹事まで提出して下さい。

目的：沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成する。

対象：沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究（自然・人文・社会科学）を行っている新進研究者（又はグループ）2名に贈る。

表彰：本賞ならびに副賞として研究助成金50万円を贈る。

連絡先：〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教育学部 齊藤享治
Tel.048-858-3195, Fax.048-858-3690,
E-mail: kyosaito@sacs.sv.saitama-u.ac.jp

■ 秩父宮記念学術賞の推薦依頼について

日本学術振興会より、例年、秩父宮記念学術賞の推薦依頼がきます。今年度は、まだ推薦依頼がきてませんが、依頼がきてから締切日まで日数があまりありませんので、昨年度の推薦要項を掲載します。今年度につきましては、9月末までに、庶務幹事まで連絡下さい（沖縄研究奨励賞の連絡先を参照下さい）。

対象：「山」に関する科学で顕著な業績を挙げた者。1件。

表彰：賞状、賞牌、記念品。副賞として賞金50万円。

==== The Island Arc からのお知らせ =====

The Island Arc 編集委員会

- アイランドアークをご愛読いただきありがとうございます。

本誌は、日本地質学会を筆頭に日本第四紀学会・日本岩石鉱物鉱床学会・日本古生物学会・資源地質学会の公式支援による編集委員会（編集委員長：平 朝彦・小松正幸、編集事務局：小玉喜三郎）で編集される国際学術雑誌です。上記学会員（個人）に限り特別価格購読の特典があります。

- 第5巻（1996年）からの購読費（個人会員特別価格）値上げについて

編集委員会では当初年間320総ページを目標に編集してきましたが、お陰様で近年はページ数が大幅に超過する傾向になってまいりました。そこで、号数は年間4号に据え置きますが、総ページ数を360-400ページに増やすことにしました。このため、第5巻（1996年）から年間購読費を8000円としましたのでご了解下さい。なお、第1巻（1992年）から第4巻（1995年）の各巻は6000円で購入できます。

- 便利な郵便振替をご利用下さい。

新規・継続購読のいずれの場合も郵便振替による代金支払いが便利です。下記の事項を記入して、もよりの郵便局でお支払い下さい。なお、継続購読の場合には「購読者コード」もご記入下さい。

口座番号 00310-8-1321

加入者名：アイランドアーク編集委員会

記入事項：購読者氏名・住所（必ずフリガナをふって下さい）購読希望巻、払い込み総額

なお、従来通り、クレジットカードによる支払いもできます。1994年7月号の地質学雑誌に綴じ込んでオーダー用紙をご利用下さい。

- 遅れておりますが Volume 4(1995)/Issue 2,3は以下の内容でもまなく配布されます。

<Volume 4 / Issue 2>

Slab weakening: Mechanical and thermal-mechanical consequences for slab detachment-----
-----S. Yoshioka, D.A. Yuen and T.B. Larsen

Possible sub-arc origin of podiform chromitites-----S. Arai and H. Yurimoto
ほか

<Volume 4 / Issue 3>

Thematic Section: Marine Geology and Geophysics around the Japanese Islands A seismic gap in the eastern margin of the Sea of Japan as inferred from the time-space distribution of past seismicity-----M. Ohtake

Rifting and basin inversion in the eastern margin of the Sea of Japan-----
-----Y. Okamura, M. Watanabe, R. Morijiri and M. Satoh

ほか

- 今後の特集計画

Ultra high pressure metamorphism(Vol.4/4)-----Guest Editors : Liou, J.G.L. and S.Banno

Proceedings of InterRad VII-----Guest Editors : A. Yao and P. De Wever

Orogeny of the Japanese Islands-----Guest Editors : G.Kimura, Y. Isozaki and S. Maruyama

Active arc-arc collision tectonics-----Guest Editors : K.Amano and M.Takahashi

- 投稿のお願い

本誌は年間に4号出版いたします。独創的な優れた論文の投稿を歓迎します。本学会の会員であるか否かを問わず、国内、海外のどなたでも投稿できます。投稿料は無料です。原則として国内および海外の2名のレフェリーによって査読し、迅速な掲載を目指しています。詳しい投稿方法については本誌巻末のNotice to Contributorsをご覧ください。

- The Island Arc へのお問い合わせは下記までご連絡下さい。

〒305 つくば市東1-1-3 工業技術院地質調査所内

The Island Arc 編集委員会事務局 小玉喜三郎

Tel: 0298-54-3650, Fax: 0298-54-3653, E-mail: kodama@gsj.go.jp

又は、ブラックウェルサイエンスPty Ltd

ケーティー・ジュリアン (日本ビジネス担当・日本語可)

54 University Street, PO Box 378, Carlton South, Victoria 3053, AUSTRALIA

Tel: 001-61-3-347-0300, 0031-61-6238 (日本語フリーダイヤル),

Fax: 001-61-3-347-5001

The Island Arc オーダーフォーム

◆ I am a Society Member of _____ (学会名)

◆購読費の支払方法(ご希望の□印を選んでV印でご指定下さい)

銀行小切手cheque, 国際郵便為替postal order

クレジットカードcard { Mastercard, Visa }

カード番号Card No. _____, 有効期限Expiry date _____ / _____

支払金額Sum ¥ _____, 署名Signature _____

◆送付先住所・氏名(ローマ字(大文字)で記入して下さい)

氏名Name(名given) _____ / (姓family) _____

送付先Address _____

〒 _____ JAPAN

航空便封筒に上票を同封し100円切手と下記の住所を貼って投函して下さい

Blackwell Scientific Publications Pty Ltd,

PO Box 378, Carlton South,

Victoria 3053, AUSTRALIA (Air Mail)

■ 第35回国際アジア・北アフリカ研究会議について

35th ICANAS (International Congress of Asian and North African Studies)

Place: Budapest Hungary

Date: 7-12 July 1997;

Organization: The Korosi Csoma Society & The Eotvos · Lorand University;

General subject: Oriental Studies in the 20th Century: The State of the Art

The Sections: 1. Orient & Asia in Antiquity, 2. Near and Middle East & North Africa, 3. The Caucasus, 4. Central Asia & related areas, 5. South Asia, 6. South East Asia, 7. East Asia, 8. Recent History and Present of Asia and North Africa

Contact: Tamas Ivanyi, Korosi Csoma Tarsasag / ICANAS, H-1088 Budapest, Muzeum Krt 4/B, Hungary

FAX 361-266-5699 e-mail: ivanyi@osiris.elte.hu

小野 昭 東京都立大学人文学部考古学研究室

〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1

TEL 0426-77-2121 FAX 0426-77-2112 e-mail ono@bcomp.metro-u.ac.jp

■ 国際地形保全会議について

International Conference on Land Management

Place: the Royal Institution of Chartered Surveyors, Parliament Square, in London, UK,

Date: 6-8 January 1997

Organization: LAND REFORM RESEARCH UNIT

Sub themes: 1) Approaches to Land Management, 2) Land Reform, 3) Environmental Issues, 4) Geographic and Land Information Systems.

Contact: Dr Richard K Bullard, School of Surveying, University of East London, Longbridge Road, Dagenham,

Essex, RM8 2AS, UK. Tel: +44 (0181) 590 7722 Fax: +44 (0181) 849 3618 E mail: Bullard@UEL.AC.UK

■ INQUA Home Page について

INQUA Secretary の Sylvi Haldorsen (TEL +47 64 94 8252, FAX +47 64 94 7485, e-mail sylvi.haldorsen@nlh10.nlh.no) からののお知らせです。

I would like to give you some information about the INQUA Home Page, which has

the Internet address: <http://inqua.nlh.no>

The page has been active since January 1996, and has developed gradually during the spring. I intend to keep the page strictly informative, and to make it a tool for everybody who wants to be informed about the INQUA activities. The files are made as small as possible, and it is possible to move from file to file quite quickly. All photos are included as separate files. The page includes the following information:

- Executive Committee:
- Scientific Commissions and Committees
- National Committees
- Newsletter and Journal
- XV INQUA Congress in 1999
- Other meetings
- More about INQUA

■ 通商産業省工業技術院 地質調査所 選考採用者の募集

1. 試験研究所名：工業技術院地質調査所
2. 所在地：〒305 茨城県つくば市東1-1-3
3. 試験研究所の概要：地質調査所は、地球科学に関する我が国唯一の国立総合調査研究機関として、①我が国およびその周辺海域の地球科学的実態の解明、②エネルギー・鉱物資源の探査と評価、③国土および周辺海域の環境保全および自然災害の予知・防止、④国際研究協力および技術協力を行っている。
4. 採用予定の職種および採用予定数：研究職・5名
5. 採用予定の研究領域
 - 1) 平野を中心とした大地、丘陵、周辺山地に分布する第三紀・第四紀の地質を対象とした地質図幅作成のために必要な第三紀・第四紀の表層地質、地下地質に係わる地形学、層序学、堆積学、火山灰対比学、応用地質について特段の知識と調査・分析技術を習得し、豊富な経験を有している研究者を募集する。
 - 2) 海域活断層の実地調査を行い、その活動度および今後の地震災害発生の危険度を予測する方法の研究を行うため、堆積学、第四紀学の豊富な知識と、海底柱状堆積物試料の解析経験を有する研究者を募集する。
 - 3) 地震予知および防災に貢献するため、岩石物性データに基づく振動特性解析の実験地震学研究を行える研究者を募集する。
 - 4) 地熱エネルギーとしてのマグマ、またはマグマ近傍地熱資源の開発利用を最終的目標に、マグマ～マグマ近傍地熱系に関する火山岩石学、高温高压実験、物理モデリング手法等に豊富な知識と経験を有している研究者を募集する。
 - 5) 金属鉱床を実地調査して、その形成過程、成因を調べ潜頭性の鉱床の存在を予測する方法および広域的な資源ポテンシャルを評価する方法を研究するため、金属鉱山調査の豊富な経験と鉱石鉱物の同定および組織記載、微量化学分析、流体包有物測定、安定同位体測定の技術有する研究者を募集する。
6. 書類の提出先および問い合わせ先：工業技術院地質調査所 総務部庶務課人事係
TEL 0298-54-3516・3517

■ 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教官公募

1. 職種・人員：地球惑星物質圏科学講座 教授 1名
2. 専攻分野：地球惑星物質科学およびその関連分野。物質の挙動・循環・文化などの視点で研究・教育を進められる方。過去の研究歴にこだわらず今後新しい分野の開拓に意欲的な方を歓迎します。
3. 着任予定時期：1997年4月1日
4. 応募書類：
 - イ. 履歴書（内外の学会活動歴、受賞歴、参加しているプロジェクト研究歴、最近の研究費受領歴、学位審査歴（副査を含む）、非常勤講師の経歴、公的機関の委員の履歴なども記載すること
 - ロ. これまでの研究経過（2000字程度）
 - ハ. 研究業績目録（査読のある原著論文・査読のない原著論文・著書・総説と報告書などにわけて記載すること。著者名は全員明記すること）
 - ニ. 主な原著論文別刷または著書 10編（複写可）
 - ホ. 今後の教育・研究の計画・抱負（2000字程度）
5. 応募締切：1996年9月17日（火）必着
6. 書類の送付および問い合わせ先：

〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 宇井 忠英
TEL: 011-706-2723, FAX: 011-736-2073
e-mail ui@epms.hokudai.ac.jp

■ 第6回幹事会 議事録

日時：1996年6月29日（土） 13:00～16:00

場所：学士会館分館 9号室

出席：鎮西清高（会長）、米倉伸之（副会長）、坂上寛一、小野 昭、小池裕子、杉山雄一、辻 誠一郎、山崎晴雄、吉川周作、斉藤享治（以上、幹事）

1. 庶務

- (1) 論文賞候補者選考委員会の選考状況の説明があった。
- (2) 論文賞受賞候補者選考委員会の委員の選出方法および論文賞受賞候補者を推薦する制度について、次回の評議員会に改正案を提出する予定であったが、まだ議論すべき点が残されていることなどから、来年度の総会に向けて検討することにした。
- (3) 名誉会員候補者選考委員会の選考状況の説明があった。
- (4) 来年度も研究委員会の継続希望について照会中である。
- (5) 「第四紀研究」について、文部省科学研究費学術刊行物補助金が、1996年度についても認められなかった。誌面を充実させるなど、今後の取り組み方を検討した。
- (6) 地質科学関係学協会連絡協議会および地球環境科学関連学会協議会への参加については、情報をさらに取り入れてから、判断することにした。
- (7) 第四紀学会の封筒作成について検討することにした。

2. 会計

現在までの収支は順調である。

3. 編集

- (1) 35巻3号がシンポジウム特集号として印刷にとりかかるところである。
- (2) 投稿論文数が引き続き少ない状況である。編集委員会としても、研究委員会に原稿を依頼するなど、努力するが、会員の積極的な投稿をお願いする。

4. 行事

1996年度大会（東京大学）の準備状況が報告された。一般講演64件、ポスターセッション14件、シンポジウム10件の発表がある。

5. 企画

日本第四紀学会特別企画『第四紀露頭集』（340ページ）を3000部作成し、1996年度大会（8月22～24日：東京大学）では特別割引価格2500円で販売する予定。

6. 渉外

地球惑星科学関連ニュースが出され、昨年度の反省が掲載されている。

7. 会報

第四紀通信第3巻第2号から広告を掲載している。

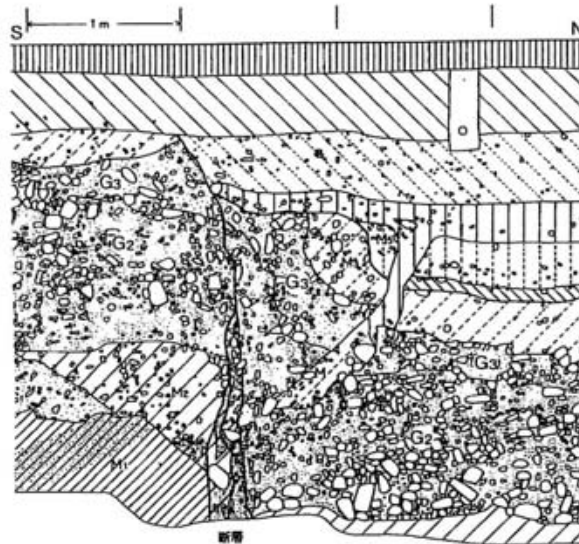
第四紀通信事務局：

九州大学大学院比較社会文化研究科 小池裕子

TEL & FAX 092-726-4847

e-mail : koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

防災
は
地球を
良く
観る事
から



江戸時代の層
最新活動の層
鎌倉及び室町時代の層
旧耕作土
奈良～平安時代層
一つ前の断層活動の層

* 工業技術院地質調査所殿発注
当社施工

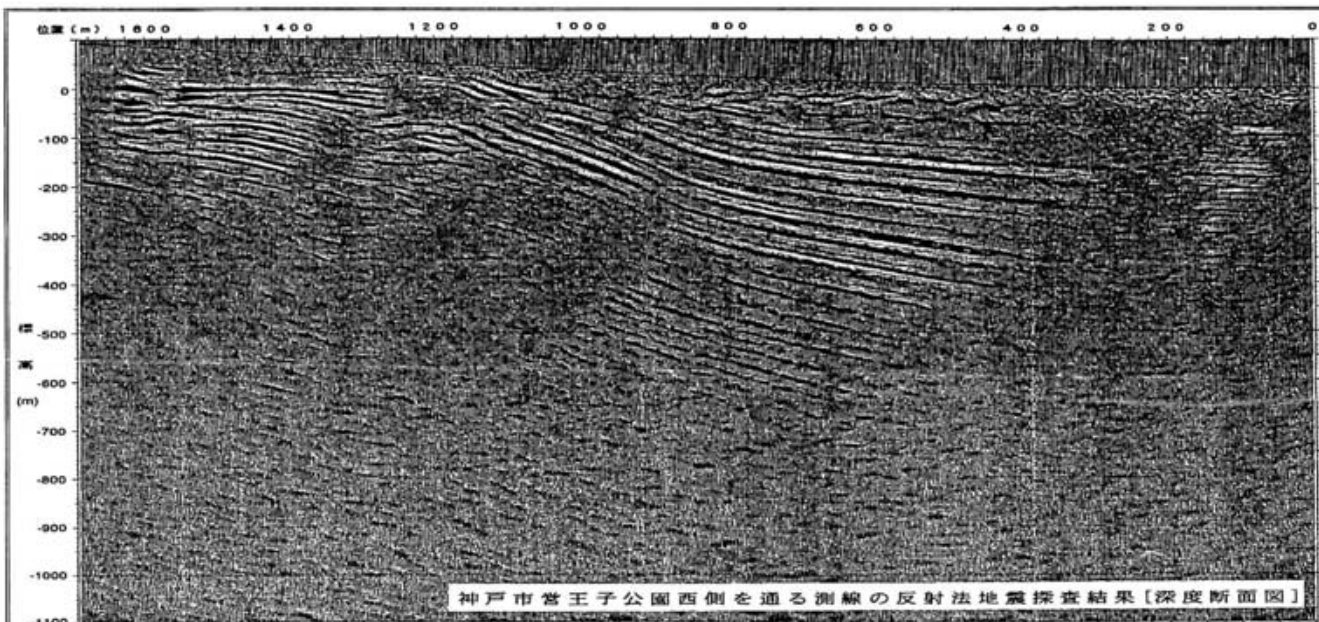
美面地区M1地点のトレンチ西側壁面のスケッチ (1996.1 新聞発表資料より)

地球と人の
調和を考える...



株式会社
ダイヤコンサルタント

〒171 東京都豊島区南池袋2-34-5 藤和第2ビル
TEL 03-3986-5191 FAX 03-3986-5192



神戸市営王子公園西側を通る測線の反射法地震探査結果 [深度断面図]



株式会社 阪神コンサルタント

〒550 大阪市西区西本町2丁目5-24 昭和ビル Phone:06-543-0201(代)

おもな業務内容

- 地盤調査・・・地形・地質踏査、物理探査、ボーリング調査、各種室内試験ほか
- 土木設計・・・橋梁、道路、上下水道、開発造成、都市計画、河川、防災関係ほか
- 解析研究・・・地震波動、動的応答、応力・変形、地すべり、水理、トモグラフィほか
- その他・・・計測・施工管理、測量、地すべり防止対策工事、さく井工事ほか